

## 出雲平野の地理的基盤と地域性に関する考察

多 久 美 代 子

出雲平野は宍道凹地帯西半部に発達し、形成は比較的新しいが、山陰には珍しく低平広大な地域で、経済的にも重要である。卒論構成は第1章地域概説、第2章地形、第3章集落と人口、第4章農業、第5章要約として山陰の中における出雲平野の性格、平野内における地域性を把握する事を目的とした。

第1章では気候条件に重点を置いた。本地域では降水量の極大が9月・6月・12月の順で、純裏日本型とは異なり、他の要素からも裏日本式から表日本式気候への移行地域である事がわかる。気候の影響は、暖地性の農作物や「築地松」の農村景観にみられる。

第2章では地形区分を試み、平野部については地形発達史をまとめた。本地域は南北を山地と2段の段丘に挟まれ、平野西部は砂丘、中央部～東部は斐伊川と神戸川の沖積地より成る。中国山地での「鉄穴流し」の影響も受け、急速に沖積は拡大した。斐伊川は北流し北山山麓に到達後西折していた為に、平野中央部以西が比較的早く陸化し、平野東部は洪水で1639年に完全に東折して以来、数度の改修によって1759年頃迄に湖岸北部、以後湖岸南部が形成された。

次に農村と都市の景観と機能について調べた。第3章では都市の発達過程と工業機能に重点を置き、工業の発達と過疎現象との関連についても見た。本地域は行政的には出雲市・平田市・大社町・斐川町・湖陵町より成る。都市としては今市・平田・大社があげられる。これらについては、年に約200万人が訪れる観光地・大社も95%は日帰り客で、観光地としての経済的発展は余り見られない事、明治末期の平田から今市への平野中心都市の変化は、交通条件、農産物集散地としての位置が関連していた事が判る。生糸の隆盛と共に集散地の今市には大手の繊維工場が大正末期に設立され、現在もその特色を残している。一般に工業の発達は遅れていた為に、過疎対策も兼ねて積極的な工場誘致が行なわれ、企業は農家の主婦を中心とした余剰労働力利用に進出してきた。南部砂丘地には大工場が進出し人口流出もくい止めたが、一般には電気部品製造や縫製関係の関西に本社をもつ中小工場が多い。新川廃川敷には土石業の工場が多く、南部砂丘地と共に用地確保が簡単なこの地域の工業化は進むものと思われる。

第4章農業では複雑な地形を反映して地域差が大きい事を示した。砂丘地では水田率50%前後で、畑地では果樹作が盛んである。特に大社町を中心としたブドウ園は県の45%も占めている。

家畜の多頭化も著しく、高い現金収入を得る農家も多くなったが、耕地自体が少ない為専業と第2種兼業への分化が著しい。湖陵町を中心に豚の本地域の総頭数は県の48.4%となっている。一方平野北部～東部の低地では水田率90%前後で、安定した水稲作が行なわれてきた。1ha以上の耕地を持つ農家率は50%以上を占めるが、工業の発達で第1種兼業農家が極めて多くなっている。これらの傾向は今後更に顕著になるものと思われる。本地域全体について言えば、戦前から単当収量が大きいのがこれは土地改良前に裏作として栽培された緑肥作物の首藪と関係があると思われる。乾田化された後の今日では山陰共通の1毛田率が極めて高く92～98%となっている。

第5章要約では以上についてまとめ、平野内においては次の通りに地域区分を行ない、その地域性を簡潔にまとめて記した。

- |      |          |      |        |
|------|----------|------|--------|
| I    | 西部砂丘地域   | I a  | 大社砂丘地域 |
|      |          | I b  | 湖陵砂丘地域 |
| II   | 今市地域     |      |        |
| III  | 神戸川沖積地地域 |      |        |
| IV   | 斐伊川沖積地地域 | IV a | 平野東部地域 |
|      |          | IV b | 今市周辺地域 |
| V    | 新川廃川敷地域  |      |        |
| (VI) | 山間地域)    |      |        |

## 多摩市の都市化と多摩ニュータウン建設に伴う諸問題

恒 良 恵 子

人口の大都市集中、都市勤労者の実収入増加をはるかに上まわる土地価格上昇、家賃の値上り…などによって、大都市における住宅問題は深刻さを増している。又、生活水準の向上に伴い、量的方面からの住宅確保だけでなく、住宅そのものの質の向上とともに、居住環境や公共公益施設の整備された住むのにふさわしい住宅団地の建設が要求されている。こうした事情を背景に日本各地で新しい居住地作りとしてのニュータウン建設が進められている。その中から、私は、地元東京のニュータウン、完成の暁には世界にも例をみない程大規模なものとなる多摩ニュータウンをとりあげ考察してみることにした。